

日本労働社会学会『通信』  
v o l . XVII , no. 9 ( 2005年 9月 )  
日本労働社会学会事務局 ( 第 1 7 期 )  
〒402-8555 山梨県都留市田原 3 - 8 - 1  
都留文科大学社会科学部 田中夏子 ( たなかなつこ )  
tel.0554-43-4341 fax.0554-43-4347  
e-mail: natsu@tsuru.ac.jp  
学会HP:<http://www.jals.jp>

郵便振り込み口座番号  
0 0 1 5 0 - 8 5 0 7 6  
「日本労働社会学会 村尾祐美子」  
銀行振り込み口座番号  
東京三菱銀行 大塚支店  
普通 口座番号 1 5 1 9 0 5 1  
「日本労働社会学会 会計 村尾祐美子」  
年会費 学生・院生会員 6 0 0 0 円 / 一般会員 1 0 0 0 0 円

目次

- . 第 1 7 回日本労働社会学会 大会開催
- 1 . 大会プログラム及び報告要旨集について
- 2 . 工場見学参加者の乗車券購入方法について ( 前回の情報提供の訂正 )
- . 第 5 回幹事会議事録
- 1 . 各担当からの報告
- 2 . 第 1 7 回大会開催準備状況
- . 新入会員紹介 ( 3 名 )
- . 労働調査プロジェクトについて ( 前号の再掲 )
- . 次回の幹事会日程
- . お知らせ - 大原社研 / I L O 共催シンポジウム「若者：雇用の促進とディーセント・ワークへの道」のご案内

---

. 第 1 7 回日本労働社会学会 大会開催

1 . 大会プログラム及び報告要旨集について  
9 月半ば、開催校、常磐大学の佐藤守弘会員より、郵送にて大会プログラムを送りました。お手元についていない場合は、住所相違かと思しますので、事務局の田中 ( natsu@tsuru.ac.jp ) までご連絡ください。  
また報告要旨集は、当日配布となります。あらかじめ要旨集をご覧になる場合には、本学会のホームページ <http://www.jals.jp> にアクセスをお願いします。

- 2 . 工場見学集合場所について ( 訂正 )

『通信』「vol. XVII, no. 8」(2005年8月)にて、

「参加者の発駅が東京近郊区間内で水戸駅までの乗車券を購入すると、取手駅では途中下車できず、取手駅までの運賃を余分に払わねばなりませんのでご注意ください。途中下車される方は水戸の二つ先の佐和駅までの乗車券を買ってください。東京電環区間からは同一金額のほずです」

とお伝えしましたが、東京近郊区間が変更になっております。そのため、東京近郊区間内から工場見学と大会に参加される方は、取手駅までの乗車券を買って下車し、つぎに取手駅から水戸駅までの乗車券を買ってください。佐和駅までの乗車券を買っても、東京近郊区間内からですと途中下車無効となります。どうぞご注意ください。

### ・第5回幹事会議事録(案)

開催日時： 2005/9/3(土)午後12:00~2:00

開催場所： 東洋大学 白山キャンパス 2号館3階 第一会議室

出席者：赤堀、大槻、小川、大槻、秋元、河西、京谷、柴田、高橋、武居、山下、村尾、田中、笹原、

欠席者：大重、木下、白井、中川、(敬称略、順不同、本文中も同様)

#### 1. 各担当からの報告

##### 1)『年報』編集委員会

\*特になし

##### 2)『ジャーナル』編集委員会(山下)

\*3人の投稿希望者のうち、2名が投稿。現在、査読が終了したところである。本日の幹事会終了後、午後2時から編集委員会を開催する。予定としては9月中に修正原稿を提出してもらい、10月半ばまでに二回目の査読を終了、年内、遅くとも来年1月には最終原稿を東信堂に入れられるだろう。昨年と同様のスケジュールで刊行予定である。

主な議論\*学会大会の報告者が増加する一方で、それが投稿に結びつかないようになっている。年報+ジャーナルの編集委員会で、報告者に積極的に呼びかけたい。

##### 3)研究活動委員会(小川)

自由報告申込者11名のうち、1名が辞退したので、10人の自由報告ということになった。15日(土)の午前中に3人、午後を二部にわけて、前半で4人、後半に3人の予定。質疑を含め1人あたりの持ち時間が30分となる。シンポは16日(日)で午前中に報告(パネラー3人<1人45分報告+質疑5分>)。休憩を含む)昼食をはさんで、午後コメント+リプライ、その後休憩を入れて、午後4時を目安に総括討論をやりたい。

議論：シンポの設定について種々意見交換がなされた。

「大きい学会ではもっと早くからシンポのテーマや報告者についての議論をしているので

はないか」

「通信などで募集をしては？」 「通信（メール）には載せているが、返事が全く来ない」

「シンポの時に紙を配布して、テーマの募集をしてはどうか。懇親会の時なども意見が出るかもしれない」

シンポ時に、印刷のフォーマットをつくって募るという形にしたい。

#### 4) 労働調査プロジェクト（河西）

労働調査プロジェクトについては、9月末までに検討し、秋元氏と相談しつつ、次の手を考えたい。

#### 5) 会計（村尾）

大黒氏、神谷氏に会計監査を依頼することにした（任期は来年10月に予定されている大会まで）

#### 6) 事務局（田中）

新入会員3人の承認が行われた。氏名、研究課題は「3. 新入会員紹介」参照。

辻会員から、「教育目的で住民票閲覧等をお願いしても情報を開示してもらえないケースが出てきた。調査活動に伴う個人情報保護の問題について、学会の皆さんがどのように対応しているか教えていただければ」との問題提起があり、意見交換をした。

この件は、日本社会学会の中でも問題になっており、日本学術会議として、傘下の学会の連名で声明を出すことになっているので、対策としてはそちらに委ねてはどうかという意見が出され、その動きを待つことにした。

#### 7) その他

\*シニア会員制度の検討について

「シニア会員」について検討する必要があるのではないかという発議があり、意見交換を行った。財政上は厳しいが、今後の検討課題とすることになった。

## 2. 第17回大会準備状況

大会開催準備について、清山会員から報告があった

### 1) 工場見学（キャノン取手工場）

工場見学の見所は以下の通り：キャノンの取手工場ではセル生産方式を採用。一台4～500万円する高価格機器の組み立てを行っている。また終身雇用と成果主義を組み合わせた人事制度の取り入れも興味深い。さらにこうした人事制度を可能とするため「査定者教育」に力を入れている。話題性が豊富な工場と言える。

### 2) プログラム発送 / 教室設備

9月中旬には発送する。報告要旨の一部がまだ提出されていないため、問い合わせ中。また、工場見学の後の幹事会の際、会場となる教室の見学が可能かどうか、佐藤会員に確認をいただく。

### 3) 書籍販売体制

最新号以外は、既に常磐大学に前回会場校から送付済み。最新号はジャーナル、年報ともに10冊程度を送付する。

#### 4) 総会次第について

- ・議長選出：返信用ハガキで出席者を確認した後、代表幹事のほうから議長を依頼する。
- ・報告内容：事務局報告、『年報』編集委員会、『ジャーナル』編集委員会、研究活動委員会（関西の研究例会開催状況も盛り込む）、2005年度決算報告、2005年度会計監査報告、2006年度予算案、第二回学会奨励賞選考経過と結果、学会プロジェクト、その他。

#### 5) 次回開催校について

秋元会員（日本女子大）にお願いしてはどうかとの意見が出され、可能性を検討いただくこととなった。開催する際は、近隣の会員が協力する体制を取ることが大前提。

#### ・新入会員紹介（敬称略）

平尾智隆 愛媛大学教育・学生支援機構 「リカレント教育後の労働移動に関する実証的研究」

岩月 敦 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 「職業観についての研究」

今岡 優 立命館大学大学院国際関係研究科 「情報・サービス産業と国際労働力移動 - グローバル空間と雇用体制の変容と失業率」

#### ・労働調査プロジェクトについて（提案数わずかにつき、前号に掲載した募集を再掲します。）

昨年の大会総会において、当学会として労働調査（フィールド調査）を行うことが確認されました。そこで、どのような研究テーマの労働調査（フィールド調査）に取り組むべきか、会員諸氏からの提案を募集します。

ご提案は9月30日（金）締切で、担当幹事までメールにてお願いします（書式、枚数自由）。

なお、ご提案をいただいた後のスケジュールは、次のように考えています。

2006年度第1回幹事会（2006年3月予定）の終了後、研究会（会員は参加自由）を開催し、提案の趣旨説明をしていただき、会員と討議をしていただきます（提案が多数の場合は、研究会が数回になる場合もあります）。

2006年度第2回幹事会（2006年7月予定）においてテーマ・方法および調査（組織）体制について検討し、第1次原案を作成します。

2006年度第3回幹事会（2006年9月予定）において、最終案を決定します。

2006年度第4回幹事会（2006年10月、大会直前予定）の終了後、準備検討会を開催します（以後、必要に応じて何回か開催）。

2007年4月頃、労働調査（フィールド調査）を開始することを目指します。 以上

日本労働社会学会代表幹事：京谷栄二（長野大学）

労働調査プロジェクト担当幹事:河西宏祐(早稲田大学) kawanisi@waseda.jp  
秋元 樹(日本女子大学) takimoto@fc.jwu.ac.jp

#### ・ 次回の幹事会日程

日時: 10月14日(金)工場見学後  
場所 常磐大学(大会開催校)

#### ・ お知らせ - 大原社研 / ILO共催シンポジウム「若者:雇用の促進とディーセント・ワークへの道」のご案内

鈴木玲会員より、大原社研共催の国際労働問題シンポジウム開催の案内がありました。

<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/notice/sympo05.html>

第18回国際労働問題シンポジウム

若者:雇用の促進とディーセント・ワークへの道

共催 法政大学大原社会問題研究所

ILO駐日事務所

後援 (財)日本ILO協会

---

国際労働問題シンポジウムは、その年のILO総会の議題のなかから、重要な問題を取り上げてテーマにしてきました。今年も、ILO2005年総会の第6議題である「若者の就業促進」をテーマに取り上げました。近年、若者の失業率が高い水準に達し、非自発的なパートタイム雇用、フリーターといった短期労働など、不完全就業が急速に増大し、世界各国および国際社会の懸念事項としてクローズアップされています。

こうした世界と日本における若者の就業・雇用の促進し、ディーセント・ワークへの道を探るために、ILO総会の討議に参加された日本政府・労働者・使用者代表から討議の状況をご報告いただき、学識経験者のご意見も踏まえ、参加者の自由な意見交換ができるよう企画しました。なにとぞ奮ってご参加くださるようお待ちしております。

日時 2005年10月3日(月) 午後1時~4時30分

会場 法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 26階 スカイホール

多摩キャンパスではありませんのでご注意ください。

参加費 無料

プログラム

2005年のILO総会について ILO駐日代表 堀内 光子

ILOにおける討議をめぐって 厚生労働省職業能力開発局能力開発課課長補佐 田中 歩

労働者の立場から 日本労働組合総連合会国際局部長 湯本 健一

使用者の立場から 日本経済団体連合会労働政策本部 平田 充

ILO『レポート』と日本 法政大学キャリアデザイン学部助教授 上西 充子

(司会) 法政大学大原社会問題研究所教授 五十嵐 仁

申し込み方法：ハガキ、FAX・電話またはE-mailで、名前と所属、連絡先をお知らせ下さい。

法政大学大原社会問題研究所

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

TEL 042-783-2307

FAX 042-783-2311

E-mail [webmaster@oisr.org](mailto:webmaster@oisr.org)